

# 令和3年度事業計画

令和3年4月1日～令和4年3月31日

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

令和3年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

#### ①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に45年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は巻11・睡龍和尚章第15則（全15則）より始め、佛日和尚章（全3則）・水西南臺和尚章（全2則）・中曹山和尚章（全4則）・金峰和尚章（全4則）・鹿門和尚章（全2則）、巻12・荷玉和尚（禪19則）・育王和尚（全3則）へと読み進める。第二第四の金曜日開催。参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など14名。

#### ②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。班員に

よる読解は三分の二が終了しており、残りを西口が担当する。

### ③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

コロナ禍により令和2年度は休会となったため、今年度は前年度を引き継ぎ、巻17・羅山道閑禅師（全19則）、福州香溪從範禅師（全3則）、福州羅源聖寿巖和尚（全1則）、安州白兆山竺乾院志円禅師（全6則）、襄州鷲嶺善本禅師（全2則）、潭州谷山有縁禅師（全2則）、潭州龍山和尚（全3則）、潭州伏龍山和尚（全3則）、京兆白雲善蔵禅師（全3則）、潭州伏龍山和尚二世（全2則）、陝府龍峻山和尚（全4則）、潭州伏龍山和尚三世（全1則）、新羅清院和尚（全1則）、洪州泐潭宝峰神党禅師（全2則）、吉州南源山行修禅師（全2則）、洪州泐潭明禅師（全5則）を読み進め、且つ原稿化を進める。隔月1回開催。参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など13名。

### ④俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊した。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。今年度中に『俗語言研究』第7号（復刊第2号）を刊行する予定。

## 2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類について独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

### ① 臨済宗經典研究会〔班長 西村恵学〕

現代の臨済宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。以前刊行していたビデオ「清規撮要」をDVD版として再制作する検討を行なう。

## 3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和2年度は、一年間コロナのために休会をやむなく続けていたが、今後はオンラインでの研究会をも新たに試みたい。

「大蔵会」は『成唯識論』を、「西田哲学会」は『一般者の自覚的体系』を、「西谷研究会」は、『大谷講義』と『夢中間答』の読解と討議を継続して行きたい。年に4回ほど、参加希望者は、メール上では、従来通りであり、秋富克哉氏や大井和也氏の協力も得て従来の研究会を継続してゆきたい。

## 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

### ① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨濟宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。昨年7月より『一絲和尚語録』の訓注を開始しており、令和4年の刊行に向けて作業中。仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の訓注は、『一絲和尚語録』の訓注終了後に取りかかる。

#### ② 天龍寺史研究班〔担当：藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受けて平成28年度より発足。『天龍寺史』の完成に向けて天龍寺関係史料の収集・翻刻・編纂作業を行う。並行して、管長をはじめ寺内有志の参加のもと、2ヶ月に1回『夢窓国師語録』の勉強会を開催する。コロナ禍により令和2年度から全ての活動を休止中で、再開にあたっては、今後の方向性や研究所としてどう関与してゆくかを天龍寺と協議の上決定する。

#### ③ 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（卍元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸初期までの日本禅僧の伝記の集大成として重要な文献である。しかし難解かつ四十一巻という大部であるため、いままで訓読などが刊行されたことはなかった。

訓読は前年度までにほぼ完了し、今年度より付注および編集作業に入る予定。

#### 5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調べていく。

また、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」は、無料リリース中。

昨年度に作成しリリースしたLINEスタンプ「禅僧なむ その1」が好評を得ているので、その第二弾の作成をめざす。

#### 6. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

中国や日本の語録研究や文献調査を担う若手研究者を発掘し養成するために、研究発表の場を提供し支援を行なう。

## 〈2〉資料収集・資料公開活動

### 1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。7年を目途として活動してきたが、調査要求もあり、各地で調査を継続している。

本事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開する。本年度の予算をもってシステム構築にあてる。また折々に、オンライン企画展も開催していく。

### ① デジタルアーカイブス「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するため、協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。

この管理のために「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用してきたが、システムの老朽化等に伴い、昨年度で解約した。今年度は、改めてデジタルアーカイブスの一括管理用のクラウドシステムの構築と、それより派生して一般にむけての公開するデジタル博物館の構築を行なう。昨年度より数社のシステムについて検討を行ってきたが、当方のニーズに対応していることと金額的な面より、データ管理については、日本写真印刷コミュニケーションズの Artize Cloud システムによって構築することにし、公開については禅文化研究所 WEB 上にて行なうことにしている。

またデータ整理としては昨年度までに調査をおえた、方広寺(静岡)・圓福寺(京都)・自性寺(大分)・両足院(京都)・瓦屋寺(滋賀)などの目録情報を整理してデータ化していく。完了したものから順次、当該寺院にはデータ納品する。

また、わずかながらテレビや雑誌等へのアーカイブスデータの有償貸し出しも行なっている。

### ② 寺宝調査活動

① に登録するための調査活動を花園大学歴史博物館と協力して継続的に行なっていく。

今年度の調査としては、継続調査として、見性寺(熊本/宝物は花大歴博にて寄託中)、瓦屋寺(滋賀)、南禅寺(京都)、玉林院(京都)があり、昨年度にできなかった西宮海清僧堂の南天棒老師の作品などの調査を予定している。

## 2. 資料の収集・整理・公開

### ① 資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行なう。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

### ② WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開する。今後、上記デジタルアーカイブス事業による公開システムが構築できた暁には、それに移行する。

### ③ 禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により昨年度の春期も秋期も展覧会をできなかった。そのため今年度春期には昨年度の予定であった「両足院」展の開催を予定とするものの、状況によって検討するしかない状況。秋季には「熊本見性寺」展を開催予定であるが、これも同様。開催できた場合には、会期中には記念講演会も行なう。

どうしても実開催ができなかった場合には、上記デジタルアーカイブス事業による公開システムをつかって、バーチャルな展覧会開催も計画する。

#### ④黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。また原文データベース以外に、基本的な文献の訓読データをもテキストデータベースとして登録していくように推進する。

#### ⑤問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無償で応じる。

### 3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正や新規登録などを随時行なう。

## 〈3〉 広報・普及活動

### 1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、260号～263号を発行する。260号は「禅に参ずる居士・大姉」、261号は「私を変えた本 — 禅僧が選ぶ一冊」、263号は「隠元禅師 350 年大遠諱」の特集を予定している。

### 2. 研究成果の刊行

#### ○中国禅宗史・語録研究班の成果

- ① 『中国禅思想史』 伊吹敦 (令和3年5月刊行予定)
- ② 『禅宗語録入門読本』 小川隆 (未定)

#### ○日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ① 『石室録』 平林寺開山語録 (令和3年10月刊行)
- ② 『一絲和尚語録』 (令和4年度刊行予定)

#### ○マルチメディア研究班の成果

- ① 『坐禅和讃』(山田無文) 英訳本 (令和3年5月刊行)
- ② 『2022年禅語こよみ』 見性寺(未定)所蔵品 (令和3年9月刊行)
- ③ 『禅林世語のこころ』 重松宗育 (令和3年度末刊行予定)
- ④ 『新編 坐禅のすすめ』 禅文化研究所編 (令和3年度刊行予定)

#### ○臨済宗經典研究班の成果

#### ○その他

- ① 禅文化研究所紀要 35号 \*電子版と紙媒体 (令和3年5月刊行予定)

#### ○オンデマンド出版

絶版刊行物をオンデマンドとして復刊する。『禅文化』バックナンバーは、55号～100号まで電子化し合本して順次出版するほか、復刊リクエストの高い書籍から順次刊行する。

上記とは別に、1冊ずつ印刷・製本・配送が可能なamazonプリントオンデマンドの利用も開始する。

### 3. 公開講義等

#### ①「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信（花園大学名誉教授）〕

『臨済録』（岩波文庫版）をテキストに禅の基本思想を平易に講義。一般社会人を対象に毎週火曜日3時から5時まで開催。コロナ禍のため、昨年度より会場を京都駅前のキャンパスプラザ京都に移している。

### 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

#### ①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

本年度もホームページのコンテンツ更新や「ブログ禅」の更新を行なっていく。昨年度から公式Instagramも設定して、禅語と写真を配信。また、FacebookやTwitterへも更新情報等シェアしている。

#### ②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

### 5. 公開講演会等

#### ①公開講演会

「両足院」展が開催できた場合には、公開中に記念講演会を開催する。

- ・「両足院の文物と対馬以酊庵輪番がもたらしたもの」 講師：片山真理子氏
- ・「五山文学の宝蔵を開く―両足院調査を終えて―」 講師：赤尾栄慶氏

#### ②教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを有料で年4～5回（8～10講座）開講する（会場は京都）。僧侶・徒弟だけでなく一般も受講可能。

昨年度はコロナ対策のためオンラインでの開講としたが、受講者が少数で開講できたのは2講座にとどまったため、今年度は会場を考慮して実講座開催とあわせてオンライン講座併用という形で開催したい。計5回8講座程度を計画予定。定番で人気のある講座「東林院精進料理講座」・「日々の花講座」を中心に企画する。

### 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館などの各ルートを通じて普及促進するほか、メールマガジンの発行、TwitterやFacebookなどを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。季刊誌については、花園会館や南禅寺会館の客室に常備いただいている。

さらに各地で開催される講演会やセミナー等にも積極的に出向き刊行物の販売を行なう。

## Ⅱ. 収益・共益等事業

### 〈1〉ソフト開発・販売等事業

#### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売と「擔雪Ⅲ」の開発

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行なう。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップの開発中で、令和3年度中の完了を目指す。

#### 2. オーダー型宗務所管理システムの構築

##### ①東福寺派管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ②南禅寺派管理システムの機能追加

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ③建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ④曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑤天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑥妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑦佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑧真言宗管理システムの運用サポート

神奈川宗務支所が導入したシステムの運用をサポートする。

##### ⑨青蓮院管理システムの保守サービス

既存ソフトウェアの保守及び機能追加と改変作業を行なう。

##### ⑩永保寺墓地管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑪藏春寺霊園管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

##### ⑫妙心寺派 白隠さんの会 会員管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

現在、臨黄15派のうち6本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

#### 3. 宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア

「禅の至宝」を引き続き寺院に向けて販売する。デジタルアーカイブス調査を終えた寺院には、構築したデータベース（無償）と共にご購入いただいている。

#### 4. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し、頒布する。

## 〈2〉 共益事業

### 1. 寺院その他委託刊行

- |                 |             |             |
|-----------------|-------------|-------------|
| ① 『糸原圓應老師語録』    | 平林寺         | (令和3年4月)    |
| ② 『正受老人遠諱記念図録』  | 妙心寺聖澤派      | (令和3年秋)     |
| ③ 『洞水東初禅師語録』    | 瑞巖寺(松島)     | (令和3年秋)     |
| ④ 『恵林寺所蔵頂相集』    | 恵林寺         | (令和4年4月)    |
| ⑤ 『梅天禅師法語』      | 妙心寺派正法寺     | (令和4年刊行準備中) |
| ⑥ 『伊達家の歴史』      | 満勝寺(仙台)     | (令和5年刊行準備中) |
| ⑦ 『楚鷄集訓注』       | 妙心僧堂        | (令和5年刊行準備中) |
| ⑧ 『開山・二世などの語録本』 | 妙派 2182 長春寺 | (発刊未定)      |

### 2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

### 3. 臨黄合議所事務局

臨濟宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

- ① 「臨黄会報」の発行(年2回)。
- ② 臨黄互助会の促進。
- ③ 臨黄教化研究会の実施。
- ④ 会議等の事務処理。

### 4. 日中臨黄友好交流協会

コロナ禍により当面の交流事業は休止。また今後の組織のあり方を検討する。